

【IBKA ルール】

本ルールは流派、主催団体、大会関係者などに有利な判定に傾かない事を重視する

《有効技》

- ・手技による首から下への攻撃（※ただし金的への攻撃は反則とする）
- ・蹴り技による金的部以外への攻撃

《技あり／一本勝ち》

- ・手技（突き・肘・手刀など）により反則箇所以外への攻撃で相手が著しくダメージを受けていると審判員が判断した場合、技ありとする
また攻撃により相手が3秒以上ダウンした場合は一本勝ちとする
- ・ノーガードで相手の上段への蹴りがクリーンヒットした場合は技ありとする
- ・下段、中段への反則箇所以外への蹴りにより相手がダメージを受けていると審判員が判断した場合、技ありとする
また攻撃により相手が3秒以上ダウンした場合は一本勝ちとする

《試合時間》

	本 戦	延 長※マスト	再延長※マスト
幼 児	1分30秒	1分	1分
小・中学生	1分30秒	1分	1分
高校生	2分	1分	1分
一般女子	2分	2分	2分
一般男子	2分／3分	2分／3分	2分／3分

※但し、主催者の意向により変更などがある場合は主催者が責任を持ち決定する事とする

《反 則》

- ・手技による顔面および背面部（背中）、金的への攻撃
- ・足技による背面部（背中）、金的への攻撃
※ただしファールカップを装着していない場合は注意を与えるものとする
- ・頭、胸を付けての攻撃（先に頭または胸を付けて攻撃した側が反則とする）
- ・相手を掛け、抱え込み、掴む、両手で押しての攻撃（有効箇所に入った場合は無効とする）
- ・相手の攻撃により場外へ出された場合
- ・必要以上に大技（胴廻し回転蹴りなど）を出し転倒し時間稼ぎをする行為
- ・有効部への攻撃にて効かされているにも関わらず反則箇所を執拗に審判へアピールする行為など

☆上段膝蹴りの有無（大会主催者に準ずる）

幼 児	小学生	中学生	高校生	一般女子	一般男子
×	×	×	○	○	○

- ・双方、見合ったまま 10 秒（おおよそ）経過した場合は攻撃に対し消極的と見なし双方に警告を与えるものとする。
- ・禁止箇所（金的、顔面など）への攻撃を受け過度なダメージがある場合は主審、副審の協議の上、試合数を 2～3 試合程度ずらす事が出来る再開後、試合続行不可能な場合はドクターおよび審判長、主催者の判断により攻撃を加えた選手を失格とし攻撃を受けた側も棄権とする
- ・審判の『止め』の合図後に故意に攻撃を加えた場合は注意を与えるものとする

《防 具》

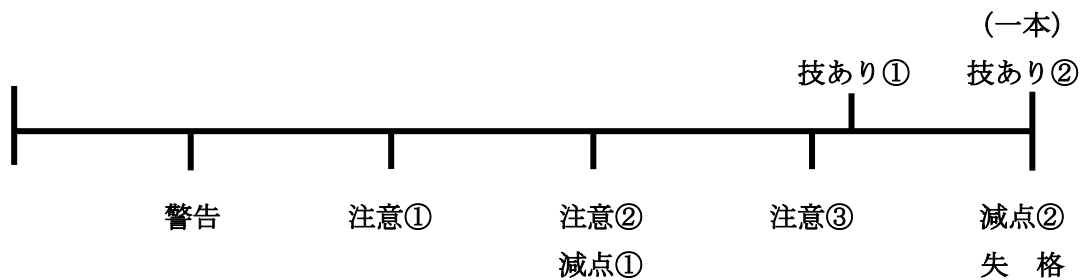
- ・幼児、小学生に関しては基本的には布製サポーターを着用する事とする革製のパンチンググローブなどの使用を許可する場合は布製または革製どちらを推奨または指定にするかを明確にする事とする
- ・男子の胴着の下の Tシャツなどの着用は禁止とする
女子は白 Tシャツを着用する事とする
- ・男子は年齢に関わらずファールカップを必ず着用する事とする
女子に関しては任意とするが着用が望ましい
- ・女子の胸当てに関してはスポーツブラタイプの物を推奨する
- ・極端に劣化した布製サポーターや明らかに改良したサポーターは主審が試合前に必ずチェックし交換させる事とする

《判定基準》

- ・上記、記載の反則を行った場合は注意 1 を与えるものとする
※ただし軽微なものでダメージに繋がらない行為は審判員の判断により『警告』とし次回、同反則がある際は『注意』とする
※本戦、延長、再延長の判定時に警告は判定材料とせずあくまで試合内容にて勝敗を喫するものとする
- ・上記、記載の反則行為を 2 度おこなった場合は減点 1 とする
減点 2（注意 4）で失格とする
ただし、明らかに悪意のある反則行為に関しては審判員または主催者の判断により即時、減点 1 または失格とする場合もあるものとする
- ・審判員の警告や注意などに対し武道家ならぬ粗暴な振る舞い、態度を示した場合も同等に注意または減点を与える場合もあるものとする
- ・警告時の副審の動作に関しては注意と同様の動作にて示す
その場合は注意なのか警告なのかを主審と副審で判断し主審が口頭にて警告または注意を明確にし口頭にて発する事とする
- ・体重の規定がある試合の場合、1 kg オーバーにつき全試合、減点 1 を持った状態にて試合開始となる。2kg オーバーで失格とする
※体重の制限に関しては主催者の基準にて変更される場合もある

・判定の基準は以下の通りとする

一本>技あり>ダメージ>有効打>攻撃数>アグレッシブ



《注意事項・禁止事項》

- ・保護者の主催者および審判団への抗議などは一切、受付けない事とする
- ・判定に対するクレームなどは止むを得ず主催者が聴取した場合も判定が覆る事は一切、行わない事とする
- ・セコンドからの審判団、対戦相手への暴言、ヤジなどがあつた際は試合を止めてでも主催者に報告し失格または道場代表者へ厳重注意をする事とする
- ・テーピングに関しては必ず主催者または大会ドクターの許可を得る事とする
- ・上記の際に必要なテーピング等に関しては各自で用意する事とする
- ・セコンドは2名または1名までとする※主催者が決定する
- ・セコンドは選手同様に試合開始、終了時には必ず挨拶を行う事とする
- ・判定後の『雄叫び』『ガッツポーズ』などは禁止とする
- ・大会当日の盗難、事故、怪我においては一切の責任を負わない事とする